

## 第22回 環境イラストコンテスト総評

審査員 デザイナー 辻野 淳晴

### 【全体総評】

昨年の夏は、これまでにない暑さでした。秋はあっという間に過ぎ去り、気づけば厳しい冬を迎えていました。まるで日本の季節は、夏と冬の二つに絞られたかのようです。

今回の応募作を拝見して、少女をモチーフとした作品が減り、白熊やペンギンといった常連キャラクターが、多彩な表情とユニークな物語を紡いでいることに、コンクールの進化と深化を感じました。

SDGs や環境破壊といった言葉を耳にするたび、ある宇宙飛行士の言葉を思い出します。「地震や洪水、噴火…地球の力は宇宙から見ればすさまじい。人類が地球規模の破滅をもたらすなどと考えるのは、むしろ傲慢だ」。

確かに地球は、悠久の時を経て何度も生物を一掃してきました。その大地で暮らす生き物たちは、地球のように強靭きょうじんではありません。私たち自身も纖細でか弱い存在です。

だからこそ、日々の小さな環境への配慮や行動が集まることで、変化の激しい地球環境を少しでも和らげができると思うのです。

本コンクールの小さな一步が、地球の未来にとって大きな希望になる。そんな気持ちで、皆さんの作品を楽しみにしています。

### 【最優秀賞】ふじみ野市立大井中学校 田中美帆さん

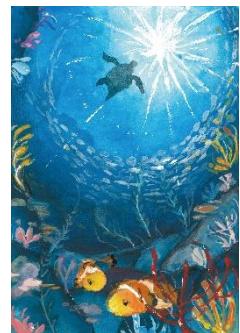
最優秀賞受賞おめでとうございます。

本作を初めて拝見したとき、縦長の画面構成を巧みに活かし、海の深淵しんえんを神秘的に表現した世界観に目を奪われました。

太陽光が降り注ぐ水面から深海の暗闇へと至るまで、光と影の絶妙なグラデーションが計算し尽くされた配置で展開されています。

通常は光の届かない海底に息づく生物たちが、まるで自ら輝くかのように優美に描写され、中景には幻想的な魚群が装飾的なリズムを生み出しながら遊泳する様子が見事に表現されています。画面全体が実際の海のように調和してゆらめいているようです。

環境をテーマとした作品には、「荒廃する地球への警鐘を鳴らすもの」と「自然の美しさを通じて保全の重要性を訴えるもの」という二つのアプローチがあります。本作は後者の典型でありながら現実を超えた理想的な美の境地にまで昇華させた点が特筆に値する作品でした。



### 【優秀賞】

#### 鶴ヶ島市立鶴ヶ島中学校 松崎 蘭さん

コミックのコマのように区切られた画面にゴミや亀が浮遊する、画面構成が極めて優れた作品です。

画面の中にはあるべき自然の美しい姿がしっかりとリアルに描かれ、清らかな景色を侵食しようとする前面のゴミが立体的に造形されている点には感心させられました。

確かな輪郭線で囲まれていることも、画面に力強さを与えています。



#### 日高市立高麗川中学校 佐島 杏菜さん

主張を声高に語らず、シロクマとペンギンが無垢な瞳で空を見上げるだけで、観る者的心を和ませる作品です。

本来、北極に住むシロクマと南極のペンギンが出会うことはありませんし、同じ場所にいたら生存競争が繰り広げられることでしょう。

この“あり得ない平穏”が象徴となり、環境問題を柔らかく示唆しています。

背景の氷山が暗くリアルに描かれ、優しい世界観との対比に引き込まれました。



#### 川越市立城南中学校 笛木 心衣さん

一気呵成に描いたかのような独特のタッチによって、動的な画面が演出されています。

地球を巡る動物たちは実体のない靈体のようでもあり、地球を囲む全生命圏を象徴しているかのようです。

宇宙空間の暗い色調が作品全体に重厚な深みを与えました。



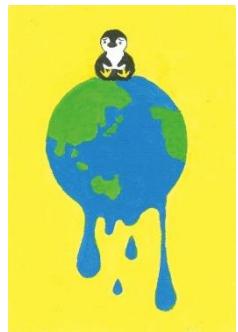
### 川越市立砂中学校 大里 茉柚さん

ポップなタッチで地球の危機をユーモラスに描いた作品です。

視認性が高く、ポスターとしても映えるデザインです。

色数をあえて絞ることでメッセージがより明瞭になりました。

困り顔のペンギンがちょこんと座る姿が可愛らしく、深刻なテーマを子どもから大人まで分かりやすく伝えています。



### 所沢市立山口中学校 茂木 晶さん

人類が進化していく構図はよく見られますが、本作では焦熱の地球で疲弊する姿が描かれています。

ストレートなメッセージが心に響きました。

靈長類を完全なシルエットにし、背景を青から黄色へのグラデーションで環境の変化を表したことで、劇的な表現となりました。



### 所沢市立上山口中学校 清中 いちかさん

少ない筆致で動物たちを躍動的に描き分けるテクニック溢れたイラストです。

特に“水中の水面”からこちらを見つめるシロクマは、水の屈折によってわずかに歪んだ表情がユーモラスで、独特の存在感を放っています。

画面を舞うゴミまでもが躍動感を添えるイラストとなりました。



### 【秀作賞】

#### 川越市立城南中学校 白旗 千紘さん

手を差し伸べる作品は本コンクールでもお馴染みの主題ですが、手と花が対角線状に勢いよく伸ばされた構図に躍動感があり、目を見張る作品になりました。

上方へ向かう線の行きつく先から放射状に広がる空、指の間から差し込む光——すべてが躍動する構図に貢献しています。



### 川越市立城南中学校 森田 明莉さん

アイスを手に、こちらへ非難するような目を向けるシロクマ。  
差し出されたアイスは、よく見ると溶けかかった地球のようです。  
大胆な筆致で表現された、内容の深い作品だと思います。  
特に、頭にゴミバケツのようなものを被り、スーパーの袋を身にまとつ  
ているかのような表現に、強烈なユーモアと風刺精神を感じさせます。



### 所沢市立富岡中学校 竹内 琴音さん

荒れ果てた大地を背景に、動物の手と人間の手がしっかりと握り合う場  
面が描かれています。  
シンプルな構図ながら、その行為が持つ重みが真っ直ぐに伝わる作品で  
す。  
従来は敵対関係とも言える人間と虎が協力し合う姿から、今後は生物同  
士が共存の道を選び取らなければならないという訴えが感じられます。



### 所沢市立山口中学校 西村 陽奈さん

深い緑と重厚な筆致で描かれた大樹が圧倒的な存在感を放ち、森全体が  
息づいているようなリズム感に満ちています。  
豊かな自然の中に、ただひとつ置かれたペットボトルが異様な静けさを  
かもし、これが風景にどれほどの影響を及ぼすのか——観る者へ問いを投  
げかけています。



### 所沢市立美原中学校 常井 日菜莉さん

柔らかな光に照らされた植物が画面いっぱいに描かれ、瑞々しい生命力  
が満ちています。  
種ごとの特徴が丁寧に表現され、植物への深い愛情と観察力が伝わる作  
品です。  
優しい輝きが全体に広がり、安らぎを感じさせる画面となりました。



### 小川町立東中学校 空閑 遊生さん

色数を抑えた落ち着いた画面の中に、ひときわ愛らしいシロクマが悲しげな表情で佇み、環境への危機感を素直に伝える作品になっています。清らかな青が背景を満たし、真っ直ぐなメッセージを爽やかに届けています。



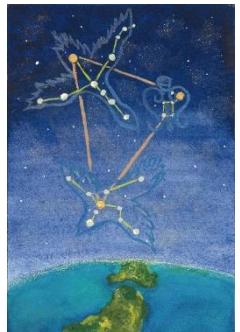
【佳作】

### 川越市立東中学校 三上 茉南さん

真夏の大三角は、「夏の到来を告げる自然の指標であると同時に、天と人間の関係性（祈り・調和・運命）を象徴する天空の物語空間」を表すとされています。

その象徴性が作品と響き合い、「自然と人とのつながり」が幻想的に感じられます。

夜空の深い青と光点の調和が美しく、作者がどんな想いを始めたのか想像するのも楽しい作品です。



### 川越市立砂中学校 木村 真実さん

大胆なアングルで、ゴミ箱に地球までもが捨てられているという発想が際立つ作品です。

ゴミの色調を統一することで雑然とせず、むしろ一種の美しささえ漂っています。

上部に描かれた丸い構造物はゴミ箱の縁と思われますが、透明感のある青で表現されたことで、画面に清涼さとドラマ性が加わりました。



### 所沢市立東中学校 熊井 日那さん

クリオネのような生き物が青く透き通る空間を舞い、幻想的な世界を作り出しています。

中央の赤いハートが柔らかなアクセントとなり、外側に配置された二つのハートは、外界とのつながりを象徴しているようにも感じられます。

静かで美しい海の物語が広がる作品です。



### 所沢市立富岡中学校 小倉 さつきさん

目を引く大きなタコが画面いっぱいに描かれ、強烈な個性を放っています。

タコが器用にゴミを仕分ける姿からは、海の生き物たちが人間の代わりに環境を守ろうとしているような想像が広がります。

ユーモアと社会的メッセージが巧みに融合した作品です。



### 狭山市立西中学校 平林 希衣さん

全体が幻想的な色と光に包まれた美しい作品です。

フレーム内の黒い動物と森林の描写が効果的です。

中央に大きく配された球体はあまりにも淡く、太陽系のどの惑星にも衛星にも似ていません。

遠い宇宙で静かに進行する華麗な物語のような趣がある作品です。



### 所沢市立美原中学校 岡村 美希さん

光が反射する滝と、水面の煌めきが美しい作品です。

周囲の深い緑が舞台装置のように広がり、まるで人知の及ばない楽園を見ているような感覚を与えます。

光と水の表現が巧みで、自然の息遣いが感じられました。



### ふじみ野市立福岡中学校 渡部 小梅さん

「地球と少女」という人気のテーマですが、本作では今にも落ちそうな地球を少女がか細い手で受け止めようとするシーンが柔らかなタッチで描かれ、優しさと優しさが同居する世界が表現されています。

群れをなす魚も画面に動きを与えていて効果的です。



### ふじみ野市立福岡中学校 吉野 りかこさん

画面を左右に分け、「楽園」と「荒廃」を対比させて環境問題を明快に表現した作品です。

楽園とは、豊かさとは、今私たちが生きている地球そのもの。

それを守る行動の必要性を改めて感じさせます。

構図のわかりやすさと色彩の対照がよく効いています。



### 所沢市立美原中学校 鈴木 美遙さん

淡い光に包まれた画面の中で、潰れたコップから金魚が助けを求める場面が描かれています。

小さな命の<sup>はかな</sup>儚<sup>はかな</sup>さを静かに訴える構図で、見る者の胸に響きます。

ばかしを生かした柔らかな表現が、救いを求める瞬間の切なさを引き立てています。



### ふじみ野市立福岡中学校 斎藤 伶奈さん

温暖化で暖かくなり、まるで温泉のような海で動物たちが過ごしている姿を風刺的に描いた作品です。

ペットボトルで頭を冷やし、缶から飲み物を飲み、灯油缶を抱える様子はシニカルでありながらどこか愛らしく、現実への諦めを突き抜けたブラックユーモアが光ります。

青・白・翡翠<sup>ひすい</sup>色の調和が美しい世界を形作っています。



### 鶴ヶ島市立鶴ヶ島中学校 志賀 みなみさん

スマホ画面を題材にした作品は意外にも少なく、新鮮なモチーフです。

無数のコップが背景を埋め尽くし、環境の危機が迫っていることを示唆しています。

正面のコップには濁った液体とともに悲しげな魚や亀が描かれていますが、背景のコップとは形状が異なり、現実と仮想、あるいは個々の問題の違いについて考えさせられる余韻があります。



## 小川町立東中学校 田端 莉央さん

淡い色調で描かれた地球と、崩れた瓦礫の <sup>がれき</sup> ような形状が同じテンポで表現され、作品全体に統一感とリズムが生まれています。

壊れやすい地球のパーツを象徴するようで、とても示唆的です。

赤い傘を差しながら瓦礫を避けて進む少女は、<sup>ほお</sup> 頬に傷を負いながらも微かに微笑んでいるように見え、環境問題に苦しむすべての生命へのエールのようにも感じられます。

未来への祈りが込められた、心に残る作品でした。

